

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫
「スーツと投資信託の選び方」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

日本の服飾界の大御所として知られる赤峰幸生氏は、「あなたのスーツは30年着られますか？」をスーツの選び方の基本としてアドバイスしています。

30年着るために最も大切なのが素材、すなわち生地です。氏は、今重宝されている細番手の薄く柔らかい生地ではなく、ちょっと重くても丈夫でシワになりにくく、着るほどに風合いが良くなる英国製の生地を推奨しています。

色柄に関しては、「無地に勝る柄はなし」が信条で、ストライプやチェックには、ひととおりの無地を揃えたうえで進むべきと語っています。そして、初めの一着は、生地の風合いが楽しめ、どんな場所にも似合うミディアムグレーのスーツを奨めています。

スーツのデザインについては、奇をてらうことなく、普通が良いと言っています。スーツのデザインは、1925年～30年にかけての英国で完成を遂げていて、現代においてもこれがベースにあるとのこと。襟を極端に細くしたり、パンツの股上を浅くしたり、無理なアレンジをする必要はないそうです。それらは、すぐに廃れてしまうファッションだと注意しています。

まとめてみますと、30年着られるスーツは、1. 生地がしっかりとしている
2. 色柄は無地のミディアムグレー 3. デザインは普通のクラシック、ということになります。

このアドバイスは、投資信託の選び方の参考にもなります。生地とは、投資国の経済のファンダメンタルズです。色柄では、シンプルに組成された商品が基本です。そして、デザインは、中小型とか消費やインフラ、AIなどのテーマ型など販売側の都合でアレンジされたものでない、普通の単一国投信が理想ですね。

インデックス投信は大変人気を呼んでいます。私の印象は合織の生地で機械縫いされたスーツのようです。確かにそれならコストは安い。しかし、30年持つなら、選び抜かれた品質の良い生地だけを使い、マエストロのようなサルトリアが心を込めて手縫いで仕上げたような、とても「ほったらかし」にできない愛着が湧く投信を買いたいですね。

全米一の服飾評論家のブルース・ボイヤー氏は、「紳士服の十戒」で次のように述べています。「この世には、2種類のクレイジーな人々がいる。自分をナポレオンだと思っている人と、良いスーツを安く買えると思っている人だ。すべての買い物を、長期の視点で考えよう」(THE RAKE 2020年1月号)

私にはインドの株式投信が30年着られるスーツに見えます。インドは長期の経済成長を支える人口、テクノロジー、民主主義という生地がしっかりとあります。この生地の特性を生かし、普通に運用するオーソドックスな株式投資信託は、きっと皆さんの新NISAの洋服ダンスの中の30年のときめきになるはずです。